

# アトリエ 琉游舎 だより 66号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)

2019年11月20日発行

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

## 勤労感謝と新嘗

- 11月23日は勤労感謝の日、戦前に教育を受けた方はこの日を新嘗祭の日として記憶されていることでしょう。戦前の国家主義・神道国教化の文脈で見ると拒絶反応と対立が起こる言葉なのですが、そろそろ日本人の祭祀の観点から「新嘗祭」をみていかないと、先日の「大嘗祭」で締めくくられた一連の政治パフォーマンスの具にされかねません。
- 新嘗祭は文字通り勤労感謝の日です。その年に収穫された五穀を神様にお供えし、天皇が供に食し、収穫に感謝する日です。日本人の信心の総体である天皇が代表して神様と収穫の食を共にする祭祀を「新嘗祭」と名づけているわけですが、本質は収穫祭です。
- 穀物の出来不出来は大きく自然に左右されます。そのコントロール不能な自然（神）と自らの力で大地を切り開き耕す勤労の協働の恵みが五穀です。神と勤労によって成し遂げられた成果物を前に、神に感謝し勤労を自らねぎらい神（自然）と喜びを分かち合う日。
- 本来収穫への感謝と喜びの日であった11月23日を占領軍は、神道や神話の世界を信じる日本人の精神が天皇絶対主義をもたらしたと考え、新嘗祭から勤労感謝へと名前を変えたのです。それから70余年、その占領政策は十分成果を発揮したのでしょうか？
- 最近日本各地で盛んに収穫祭が行われています。大きなカボチャをくりぬいて装飾したり仮装して練り歩くお祭り。あれは何に感謝しているのか不勉強な私には分かりません。ただあのくりぬいたカボチャの中身はどうなっているかが心配なだけです。
- 収穫祭はそれをおいしく頂いてこそそのものです。おいしいと思う気持ちが感謝の気持ち。今日も琉游舎農園で採れた虫食い野菜をおいしく頂きます。ごちそうさまです。



### 11・12月のスケジュール

11月			21	22	23	24
月	火	水				
25 居酒屋の会 16時から	26 読書会 13:30	27	28 映画会 13:30	29	30	12月1日 写経会 13時半
2	3	4	5 映画会 13:30	6	7	8
9	10 読書会 13:30	11	12 映画会 13:30	13	14 詩話会 13時半から	15
16	17	18	19 映画会 13:30	20	21	22
23	24 読書会 13:30	25 居酒屋の会 16時から	26 映画会 13:30	27	28	29

**写経会**  
12月1日(日)  
13時半から

**詩話会**  
12月14日(土)  
13時半から

**読書会**  
11月26日(火)  
12月10日(火)  
13時半から

**居酒屋の会**  
毎月25日  
16時から

**映画会**  
毎週木曜日  
13時半から

## 狂言綺語…問答

問いに答えることは思いのほか難しいことです。特に自分自身のことについて問われると答えに窮してしまふことがあります。たびたび問われる「なんで僧侶になったのですか？」への答えは以前この場でも書きました。ただそれがこれからずっと正答なのかどうか、3年後には違う答えになっているかもしれません。しかし質問に真摯に正直に答えられたものがその時の正答であると考えてなんとか質問には応えていこうと考えています。一方「趣味は何ですか？」という問いには無趣味の私は真摯に答えようがないのです。「映画と読書です」と無難にこう答えると「一番好きな映画は？」と二の矢が飛んできます。私はここ数年映画館に行っていないボロが出ないよう「殺しの烙印」と「仁義の墓場」ですと答えるようにしています。そうすると第3の矢が飛んでくることはほとんどありません。これで煙に巻くことが出来ました。

ところで前回で狂言綺語はちょうど50回となりました。切りのいいところで全部を読み返すと、私は最初から同じことを書き続けていることが改めて分かりました。「安らぎのところ」と「願い、誓い、行う」この二つの言葉を私自身の「毎日」にするために自らに問いを投げかけそれに答えて50回、一の矢から五十の矢まで自らに問答の矢を射続けてきたようなものです。このように私の狂言綺語は自問自答の繰り返しですから的を外すことはありません。しかし真ん中の10点満点を射貫くことは決してないのです。私の放った50本の矢は6点のあたりできれいに同心円を描いています。これはいけない、的を外すことがあってもいい、失速して届かなくてもいい、途中で撃ち落とされてもいい、キレイな同心円を描くような結果は予定調和です。真ん中の10点満点は決してこれからも射貫くことはできないでしょう。それは「信」の場だからです。「信」は再三述べてきたように言葉（ロゴス）では決して射貫くことはできない場。真ん中は「行」によってのみ射貫くことのできる場。その「信行」の場所をぐるりと取り囲むように言葉の矢が同心円を作っています。この様子を眺めていると、自分自身が唯円が歎異抄で痛烈に批判（異議批判）<sup>注1</sup>していた、仏法を自らの計らいで解釈しようとする似非僧侶（パリサイ人<sup>注2</sup>）たちの姿とだぶって見えてきてしまいました。と、いつもの狂言綺語であればここから自分の放った問いの矢が6点の的に届くように答えを書いていくのですが、今回は予定調和をやめにして最初の段で煙に巻いた趣味の話に戻ります。

趣味には時間と資金が必要です。特にコレクション趣味は投資対効果が全く不明で「花より団子」がモットーの私には向いていません。コレクションにそれを求めるのはそもそも筋違いなのでしょうが、小学生の時に夢中となった切手収集は今ではプレミアムどころか、額面でも引き取って貰えません。切手として使おうとすれば、封書の4分の1ほどが切手で埋め尽くされてしまうでしょう。保管場所をたいしてとらないので今は死蔵状態です。コレクションの大半は興味ない人にとって、骨董は燃えないゴミに、スクラップブックはトイレトペーパーに、庭石は躓きの石となってしまいうに違いありません。私は子孫にゴミや負債を残さないためにもコレクションは切手収集以来持たないようにしています。とはいって他の趣味があるわけではありません。ランニングを趣味にしようとしていたのですが、コリーナのアップダウンは過酷なためこの地で趣味にする覚悟がまだできません。ゴルフやカラオケは会社員時代に接待の道具としてさんざん仕事してきたので今更仕事を趣味にすることはできません。尺八を趣味にしようとして最近購入してみたものの趣味と言えるようになる前に肩たたきの棒に変身してしまいそうです。私の無趣味は根気不足かめんどくさがりが原因のようですが、無趣味でいることは時間を自由に使えることなのだ勝手に得心して今は満足しています。

時間が自由に使えると、皆さんから「少し時間を貸してくれませんか」と言われた時喜んで自分の時間を差し上げることができます。これはまた皆さんの時間を私が有難く頂戴しているということでもあるのです。これはお互いの時間の共有、対話の時。ここの所様々な方と会話する機会があります。これは自問自答ではなく他者との問答です。どこから問いの矢が飛んでくるかもどこへ答えの矢を射返していいかも全く予想が付きません。このやりとりは実に楽しい時間で、お互いの時の経つのも忘れ三時間も四時間も話をし続けることがあります。「言葉」の投げかけ合い（議論・ディベート）であれば、言葉で相手を納得させるか屈服させればそこで時間は終了してしまいます。「行」の問いかけ合いであればお互いがその「行」を理解し尊重し自分自身の「行」にまた再び歩を進めるその時まで対話（問答・ダイアログ）が果てしなく続くでしょう。先日の問答の相手は帰り際に「これで確信をもって前に進めます」と言われました。有り難い言葉です。私自身もその問答によって自分自身の日々の行いが形（言葉）となっていく姿がよく見えます。問答は互いの「行い」を言葉に変えて、真摯に問い答える「行い」の場のような気がしてなりません。

10点満点の「信行」の的は「言葉」では絶対射貫けないものだと考えても、そこで開き直ってはいけません。「信行」を「言葉」に変えて行く行為は続けなければなりません。皆さんとの会話の中で、それは「問答」を繰り返し続けることだと最近分かった次第です。そういえばプラトンの著作は「対話篇」と呼ばれ全て師ソクラテスと他者との問答によって書かれています。日蓮聖人が時の最高権力者の北条時頼に提出した諫文にして主著「立正安国論」も旅の客と宿の主人との問答体です。

「乞う、対話の相手。当方、時間はたっぷりあります！」皆さんの時間を私に **琉游舎：戸井 出琉・恭子**  
お貸し下さい。琉游舎でお待ちしています。（出琉） **お問い合わせ先：0287-53-7848 08033508152**

注1：歎異抄（第11条以降）注2：「歎異抄現代語及びこころ」（梅原猛）

**矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850**